

NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション(GLEA)の
メールマガジン第189号をお届けします。ご意見・ご感想は<glea@npo-glea.org>まで。

◆今号の内容

1. トピックス
2. これからの活動情報
3. 『国際交流への期待』同志社大学 教授 高杉 直 氏

1. トピックス

- ◆「Visionary World Cup 2025」を開催中です。
(9月5日(金)～6日(土) 台風接近のためオンライン開催に変更)
大会の結果は次号でお伝えします。

▶大会詳細 <https://npo-glea.org/?p=1517>

2. これからの活動情報

- ◆INC オンライン・プレ・ミーティング(参加者向け事前説明会)
日時:9月15日(月)
場所:オンライン

- ◆第24回大学対抗交渉コンペティション
日時:11月15日(土)・16日(日)
場所:上智大学及びオンライン
▶大会の詳細についてはウェブサイトをご覧ください。
<https://www.negocom.jp/comp/schedule.php?tno=24>

3. 今月のリーダーシップ情報 【コラム／column】

同志社大学 教授(当法人副理事長)
高杉 直 氏

『国際交流への期待』

本年4月から7月にかけて、スイス・チューリッヒ大学において「国際仲裁の法と実務」に関して在外研究を行う機会に恵まれた。チューリッヒは、国際金融の中心地として知られるだけでなく、国際仲裁において仲裁地と選ばれている世界有数の都市でもある。また、チューリッヒ大学やチューリッヒ工科大学(ETH)が所在することから、欧州における学術交流の拠点にもなっている。

今回の滞在で強く感じたのは、欧州における日本の存在感が、かつてに比べて明らかに薄れているという現実である。週末に訪れた欧州諸国の観光地では日本語を耳にすることは少なく、街を歩いても日本車や日本製品を目にする機会は限られていた。私が参加した複数の会合でも、中国や韓国などから多数の参加者が出席して活発に発言する一方で、日本からの参加者はその数自体がごくわずかにとどまっていた。

もっとも、学者や実務家との交流を通じて、日本の高い技術力や独自の文化的価値に対する敬意は依然として根強いことも実感した。ただし、その敬意は、先人たちの不断の努力の積み重ねによるものであり、今後の世代が積極的に国際交流を重ねなければ、やがて失われてしまうであろう。国際社会でリーダーシップを発揮するためには、専門性に加えて、自らの意見を明確に伝え、異なる文化を背景とする人々と協働する力が欠かせない。私自身、言語の壁や消極的な姿勢から十分に力を発揮できず、数々の課題を痛感させられたが、それがまさにこの重要性を裏付ける経験となった。

これから社会に出る学生や若いビジネスパーソンには、ぜひ海外に積極的に飛び出してほしい。長期の留学や研修に限らず、短期の交流や国際会議への参加でも十分である。異文化の中で自らを試し、議論を重ねる経験は、個々のキャリアに資するのみならず、日本社会全体の力ともなるであろう。若い世代の果敢な挑戦と積極的な国際交流に、大いに期待している。

=====

発行元：NPO法人グローバルリーダーシップ・アソシエーション

発行責任者：野村 美明

(HP) <https://npo-glea.org/>

(TEL) 070-6560-2633